



特別
A12
5122
5



義隆記卷第七目錄

五うくくくんかぬちら乃る

大川乃る乃る

あくら山事

三乃くられをふと後上乃る事

をいせんち乃る事

はよ升乃ることよて義隆公をさうら乃る事

月紙事の川よておい乃る事

かめ正山よて乃る事

くうくくくく乃る事

<2019-80>

至るのようもんすわうと抄がどしんあはれとものく
パーリウをとうりういたうしう名あまてう人東山道を
せのちよるねとせせんの事わしんすうと記しよひ
て抄くつたつこもなりわくろくさうを悉らせん乃國
けうりれいりうりててものくふりてをゆりん
すらあひよひせんしよありてしよとてみちやさこ
めさてすのこさしりつやうしよての下取つたとき海
くすーパーびる中におあしよのせ席パーびるをゆひ
やとくはくさうあつたよとゆしよは出た山ひきほ
くさうくしよとパーねしけ井もささしよあらんすしよ
やもけんとのらまんと海さう乃子なぶ家せよとけう
あさくれーとうむひく今めのとささしよらなふまし

うしちゆつじ志まねとまこまもらあひれをけ
さひせりつりもしてさ海城の色もきてくさつやと
の終ひいましめて抄りパーりさりしよ山パーの抄と
のこまゆりさりゆくとパーあはれしよとよそれ
りつりしんせもせんやと張いてん回もとてひと
さんまうせらせんのあふ氣のわや海をいせん
うく乃あまもさくやと之のらうりくおよなきくり
てし乃國もさしうらさんとて山とやあふとさうあ
まもやとパー乃あひてしやうがさひはる録志や
あふのけのありさ海八たのあんのやうとたはせん
りーゆー乃み録山とーのまのこると所とふら記を
乃建のさしーくしよこちをてら城ろつたあ抄がせい

乃をきんすくけおひうけたらしんすわりのひこ押り
あつひそのせれ三島ありれねとつひたりんをねを
よぬ事しよあらんをねをいりおゆもみれ陽う
とせよとて押りひしくるゝ名をまつまううしこおう
をまやう乃きと伴勝れ二島をせせししのみきこくま
おた帝さちぬのさえらそやうらうさてのうはきとう
うつさとう志まつあもつおとくつあを付くそもひ
けさうくしんとよのをくしよある人れけいねしあ
りのつきくろ志あふ小神二つり矢りすつあくら地
あろのひこひくよをを大くらむりらとすとすりる
とこゆりきのしんもよありくらときんめれささまを
ひらこうてつひもやうとまもまともうとそPひる思

ひしく乃つてたらとそ志のらつんあひを大きんたり
よそのありたれを神みりのなるしやう志うおらん乃
とくきんあんつとひてもうまのそくつたううおゆ
ひて志んをうやうれはうときんとそのけはつひら
ととて一しとまたらあひらのよありてからうい
とそさけはらとけらむこ一とてうをまきんたやのふ志も
おだつうとまそりなりてうけう衆くらおひ乃ありよ
ひれめありくらまきらうよハまをひららありひらと
うゆいそんさうてんしやうよを田しやく又をしんれ
大たら海海よこさ海よをださちけらあくらつみも
つてぬらもあつれせんたらやとそみしけらさうして
せいそ十人おひ十らやうの目一ちやう乃たひよを



進井とつこてぬさうくんとわあつてまきあんのつとつ
 し乃初んうんの進たりたり一ちやうれおひよを
 らぬ多一十のーらひくま天くらりなとそそ入たつ
 のらおり八ちやう乃れひよをみおよりひけし
 うす

を流流まら城あきて見えなすてし趣しきいよせてあり
るる目しそ人してりしうきし流ひしおあまりの
流うきし—されたこの町こみま乃さしよまうと流ひと
人そつりらふうとさひくもかりりしうしつこらせ
たさひゆの胸もさみらたくる流くさりゆと—せと
抄介せ乃ゆけさし回しあ乃流や—うくまをりつた
ありさ海もしてしうくう—一—一—せゆとんと—
てをゆくとさみらくも—のまてゆるん人
城あるくう—し—し—きてうま地所えせまの—
ゆりし事つこも—を思ひまらせゆ人きり—つ子
成さ流おくらしゆひきも—なりうをさゆとくうの
しあさつぬらん—流むつひり—人と集らせゆし

それまてしゆあ—あなりくま—せお—あ—うくと
—せと—う抄介と—れいひつ務と—あれもけいひ
たおも—て—と流もぬ人乃がふゆ人よのまさ
とびりひ—を—はるつたあつれをさうつみ流もさ
らん流—らうせうゆちやうたな—ひるん—と
ゆくとたわたらを—ものつ—さりうものゆるよ
た—て—さうさりう—こ—う—の志流ひゆ
つひあ—し—ゆあ—あり—し—ほ—を—國—
た流のうへまてし—う—せ—さ—り—
あ—の系もれあ—の—の—さ—よ—た—の—う—
ゆりたへりおされたうたのちを抄りひたえさうし
乃しと又めくりふさうやう—はく—さ—あ—た—ま—ひ—

ひよもくもうちとひて二ふひうふことのをよりくつ
わらうらうらうられパーよしあていりふうやこ抄が
ゆきやもどくまをさくまてはまじつうもななりなま後
母まてもりよのころんをつみよりまき事とまき種ふ
中ひそまきぬれなり乃よりまきぬれみかんとく
しをひひ一紙こなぬもや人乃パーひひ一り月
日る一そくとゆふもくろ一をひりまきまきうれの
くれあさあ一六りくもまきしてひやうをけとの
まかすけなふ人やまけをらとと下されぬくぬか
つしれまのをうこさうひひもま人を一れ
とらも乃くまされれくまそれやもぬるうすう今
うさふとけのさん事一うらうのけまけふとらめて

ま人のあつらつよさなれぬらりうら一やうらまき
なまことまふあをまぬらぬらむら一うらまき
むまひりやま一火のあつらうまてつゆ一すまなれ
あひけらぬまやうしひひまて乃かまぬれぬれ
ままこ抄が書て

ほつらうら我もあつられうりれ
あつらうらひと乃らひしあからん

とそあつらまされはつらうらとつんあのみくつらうら
あつらうらまきまのうせうまかまらりりやあつれ
うらうらうらうらうらうら一ゆくまきまきうら
うらうらうらあつらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらあつらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらあつらうらうらうらうらうらうら



かしらーあさねほどもほほほしよあーもちこりーたのそ
 せねえーあーゆりすほるーもーゆりゆりゆりゆり
 王て渡らせたまひゆひりるこーあーうらやもあをれを
 ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
 かしらーあさねありる

さう猶ふ二月二日まゝに扱ありのおひさでりしをいへん
と一語ふ西の業戸より人の書とらるりつらり老なり
らん世所らんをねをふたれひこの世めれと一す
あんのつこつひみさあろふひこく世はのちんれもの
まふそくちのりま一つとわのりこらとひまみこ一とまん
うらまにと一まのひやもせひとせぬも一のらんそ
事りつらとふた乃のひこさるしとせしんよあつひをさ
て集つてふとのぬくさあうてんれ世直とさるしし
おひひりおまらひひへかつお甲一もあるをながしよ
ひせひつらとふ十三一はわりらまのふさこひな山
一ませうろりりしひぬさかみで世物さるをせし
くろをささくをせひひとせしまうの世す急ふた乃しこを

久我とのくむめきこさる一たつくつらめよるれも
ち乃世あうひ世ものまうてなわとせさうれ世くろま
なしとく世さるへかふらうくあつちのめらようり
もさししよつせたらぬふはくはほうれ世こよう
とあてられをらう一たれとてはらるる世のしとれも
おりの山や一とせとつりはり海と一をよそ
神もかといもま一まさぬうとてそのく一やう志乃
神とそむかりりつとてはよふ世はらとくをくあゆま
せはせまらまらとせのわなつとせとせなをあく一
所めをせし一りつ押らあきとをせしとせしとせし
所めにてまらりてすしめ終ひりりまゝ扱よりふり
てしとせし出さ世のひたれやもハしとせらるるも一

もふとちふ見すてくり包れうらむの

なふれおさけりー絲をなぐらん

ちしりくうらまきさむわしあふさりのせえまらのほ
のふまうなりとあなをさく見ましうき将り志のふま
ちり乃ちを連らさうらまーつむ連くちやせり事か
まを母乃ちのこひりーおのけりーせおりひちりま
てあつれなり乃たれたのふさくり路ひを奪たまん
をえた乃ちこまやこまをみーしも志乃ちありれ乃
うらそひくいとくありれよお母ーめーてびくうけく
あたまふ

すまなれーこまやことおく志乃ちぬをさ

ねくちうおをなぐりするりたり

びくて大佐のうらもちのくけり雲乃ちぬのけりさふあ
ゆびくお志乃ちとまをさつてり乃ちあひのこひあふ
もくれぬとうちなりーしあやー乃たぬのややうる福
ろーなりぬ連を大けのうらまをうき路ひなる

大いぬり事

あふふうまをりそお集らるてんよららなり人とつぐ
つとせよと推ひろうすりお志もあふれせうくしん
やなやーりさりてうれせいすよんよそまやこそか
ほふやまのーのを大け乃ちやうちゆ山あれさそん
おんこやうーのけりーとつこらひくーやうらま
く所りなるあひまらなれぬもさうくしん乃ち大つの
なふさな大けりい志ありあ事しあかづうのけやま

なむせのしる松りしりまのしるあふんれむひとの
その大川次席にपीそののいふなりおんあひややと
うらをりちきもくろ山ゆれくま整り一年こきり
して下向ししゆやと成るひくへこりせたりあね
まゆくつさうなひなんいなくやまのまの
せらちゆようちあげてせんほうのみこまやうに
まそらうと終ひりこれそ成とのめ乃けめなり大川二
良をさあもんめま城あり大川二の女抱
め一みえたてまつりてめつりしれ山ゆしちこ
やせん園のたう志やとを乃終人ともいやく乃り
くさえつりゆもく人よあすこり判費との
乃やまぬし小なりてくくり終ふなりよなはぬし

大せいどしめて城りしあしてを成のためと大る
るり次席よりひて山事とまをてさうくまを
あ一まさを城まてかすすと成りこくまもつて
もつりつてさうくまのりんり入てん
こつりあつりまをさあつと成りひあはれ城へ
所つひと成りつてあやこをひひせて一まなり
色よ終ま入てつひりつとまもようおかされ今我
志もまをくまをさあつと成りひあはれ城へ
てひさりつてさうくまをさあつと成りひあはれ城へ
城あはめてさうくまをさあつと成りひあはれ城へ
り包りしるつりみなり也り山事ありさうくま
とのまを成るまをさあつと成りひあはれ城へ

のり巻うくたくらりたし事しうほを山しねをんれ
めりとのりくろひ山をさあしめされしん可ふら色
ほびくまら今我をこれしをありう衆のひく脚の乃
ほなしをしほおしせ乃つまきせ終ひ山つたこれか
なまあれさきんしとパー人しやうくまきとらゆんて
判友との証まらしゆつうきほつそしゆくこれし小紅
と一そうりらてはおめされゆひきまやくそうらら乃
ほ中しよあひりあくろえさ衆終ひてはこくつうま
ほびくんとしけるおんけりしける巻あしあやまら
ころりりさゆも終やもさうろりとあよ里つらひ
ゆりしをろよさをとらとつ終ひてはゆりをもおひひ
もんまきゆもくつ終やしては終ひてはゆりも終やも
ふつ乃しうりしめしとてめしち乃ゆよあ
てをらきんの國をりせたまんとしけるうくもん
つてさ衆の人を大川に落とすなりし衆終ひて
ら巻てそまらしせり

うして大川流るや下流れさ勝せん乃りてうりそ
 り包まて中りさそりいつ乃うよおとくよそ山まの
 ちうよううあひてふすそよありてゆきうけふ
 つら山あひこつや油中て包ら乃事いりすをやり
 てうまひいもんこりたれをそれほこれ大るりこく
 くそそ中り大川二流流りり包まてたれとつて
 目れりしそそそそ笑うきおひりそもるは油中まれ
 とり入てゆきも中ゆもんそそ大川乃ううそそ形出
 を世ふのうそそ世をひしえて山祿よかそそりけらと
 のう大川二流中りるをあるこをある大川乃う乃そ
 形より乃ううそそあくおんえゆそそううのまら
 お連そひさのうんと中一山五乃所知うてんそうをり



見たりんもろれぢぢくを記しりらふし海をこけて押り海を
きりのせよまうせては種お救せんらうらふしあふ
みいけくやもとくぬうらをまきおしつうふこれま
あれい家そつうくうとらひ路てあふえのらふひこ
た乃うらとそやーけらまこのひこれまふあーめ
てくくろけくけ路ひりら

あまのぬすりさこのみみのけりりりり

あこし波波のうらうをりーま

あつひけの船部とらそまてれうとほてまうり二海の
八道しやくせうり

うけくはくまのく入界れうら風り

おくれおみふ秘のゆふくれ

あつひけのあつあつらも今うけりひさきさくれ
のさつひけのうらうとこまきまてりひつものうらまそつまよ
けらすよ人の人ことあきまりて大川二島はけりや海
かーまりあくふかーまけり事あり道とらと水をさふ
けらうせのつと又まれしとみおとるそあきさうらう
くしんおかうらうれうらをまきやけもけり一つまれとの
なうらもあさけあか老うれとくせりやとけりーめ
むらうらう城のてとくせとくこらまのりらうー空て
あつれおも思ふしとらせらわとみ路人を想んあふ
大つ次所河ま縁さやまきまけれとらうすわを君まて
とらう世路ふなりみらうまてと色びくもなう世路とく
とらうんのまかりとら世路まておのりかーまらともあき

けしきまきりふあくつらんのたちらうとてそさひお
けり大川二筋あまをさうもあてつりまやもほとせ
たぐいん世中しくきこ乃ほくあわくゆとつ積
きつやまやてつりくわもまされまこつせおま
さんちうわをねとまりてえまのせゆりんとさう
まわり下らうなれとをかふけありてそおちくろ大
川二筋いゑよりおつて見えぬ女をたたくひかり
とをぬしめてつらうさうてうろろ大川つり世
しくつひひれ世ととさすありれ女をせんがふ
事と思ふひり山おしとめてもうくもんとあや
つうしてよせふうえおみんとせよれあひよ乃を
てういほのうらまをねく聖おらんばとせあなまを

もうもたぐもめとつひほくあひこほくさつめくり
とりのちおとをよとてれたちとほくまきと淡らうとせ
てつとをさくわしけみせんつりひさちちちうろ
まのかりまおこととくさすつおのたさくらを
取しとらりれよそれもはうものくまてさう
あまを大志みりゑえさうつとみまをめまりよ
うとあくくろあけりおとこつあやも女乃あまを
つらうとせいしとつをさう思ひたらぬらう
ねうあつたれ

あつら山乃事

判費をういつらうとをさまひてあまの玉とえら
せえれさうひりあつら山をわくまたまあや



とゆゑにたらしむるをいふはあら比のやととすゆりんまを
 中園はうんをふたつびをまのあらちをまなすぬる
 をゆりへはやゆり志をいふをいふけいゆうゆう志りて
 山とすきし

こゝろをいふそれほとちりていふぬありつゝ
ついでんよりとなすといふをいふとせぬとせぬとせ
あはれしつんげいの中いふをいふとせぬとせぬとせぬ
まゝていふをいふとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ
のゝらりやとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ
すゝはよたひこゝろをいふとせぬとせぬとせぬとせぬ
りつゝあはれしつんげいの中いふをいふとせぬとせぬ
うめられまゝのうせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ
種よりいふとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ
をいふとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ
のふをいふとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ
よていふとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ

さんちのつふとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ
せぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ
うんちのつふとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ
乃山とせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ
れいもれとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ
もつとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ

三のくち乃山とせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ
我もすゝはよたひこゝろをいふとせぬとせぬとせぬとせぬ
園をいふとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ
をいふとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ
三乃くちとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ
世にすゝはよたひこゝろをいふとせぬとせぬとせぬとせぬ

まゝいりひのき死す一かゝるておちむつやなりこの
ねんをゆのせまたつるのたやう大なり一ととと
うせ病ひともくろあんらんをゆ一押りえあせきま
河とつあさるあま付くまき乃をりぬ神よこがこて
あいつこのけおけうせ病ひてえら登又二つゆりこ
乃こおりよりくまそいおのまふをあててみやまのく
けくけくしけをのちりのあかりさまら一ぬると
名あしくはえ病ひてをえぬよこからまてゆそれよま
のりゆうさうのめはこまやまどこえてまひりてしれ
くんしうひまのぬれく小町とすものくすまゆひり
さまけくまびあ乃ゆやと一ととあまこまらりのを

死てさうゆひちる時るりむ乃ちう一やうあつま
をくこまたうひちるよの色とのあ病はりりてをゆを
つきてことゆそまおらう一やうくたわ病ひておねい
せうの病人をびなりくむわてと一ひゆくまらぬ
とすまこの病もりのあう一をなふつおまかてゆれ
やあか人よりおうへくおと一あ病もりのまのこ
や一ととすれちりう一やうあ病もりのこおゆま
てさゆ乃をこり一まどうわのくうと病ひりるあ
くりりやの病もれまらのひとあは

おの病とよつさやつとま一とれと
とうこのひりか名本をゆらんしてをまらゆ一ゆたふ
もあしつ病をひてひくのたちをちりくゆまよまけて

あのみらりーくうせにまふーしやーあわしーう
くしんこれとまてはひて是かこゝとのよとをたーハ
まん乃はらうーひとあがゆらうのやあのみらりー
うくまてゆりんせあがとーんあねしーけんけのまひら
あうくうせはらふーあがまをさうまめははらんせしやれ
ほーめさねをかーらせのふーしまやつまきこをみ
つとあうせよはひてをうーひとなふけくまをーし君
とたらうとゆりーせんせうすまをあわしはうれを
わらしてあといんうをーしとまきこをあふまーと
けまをまふやうーしとまきこをあふまーと
あーしうたらうひととのふとまのまをさ海おふくまを
ゆりんすわうとまきこをあふまーしとまきこを

あー乃をたててくひとをたててそのま海よとらてあせ
こそひをぬまうてひとをぬまてあうらあきんさ
しめてくまのまあらのまうまーせとせあひまを
あさひくーまのまを海とまをうたさあきんさ肉
まゆーしううーひらるーひくうくうふ井の上
あきりんうらふまをまをまのうきてはとま
てゆへをまうまびうひまうまをまのーしまのらせ
くんとれがせうまうへせつうてのまをまをまのま
うんーまらんまをまをまをまのまをまのまのま
まよとままんま二つこれま一つまぬまひらま
まれーゆまれ中ーまあまこうてあまぬていま
うらまらまのまう人う下人平三麻といまあまこま

あうよとこもひうくおうれなうさおのの井のふ
しらろのあんぢんの所一やうたのくもんをんたを
しませう一あのせまををむらぬとさくあて八を
乃あめとひきてはここのまどぬまをゆがさくれり
きふそりせも戸のあやもまうくもんまておる
あさなうれぬうたうおがさらるるくゆす一ぬ
ふとさもひとくおるもんぬうをりうよととりの先
けくおんびのこれとぬくておのりくせんたらゆ
りんすけうをさ山ほう一しほりの中事一とゆとらめ
ゆひくまきんは一やあ大和もうとらふく一とそ
けりててせまやのまぬを井路人ぬ先一と判費
まておる一あ一たれおんあの戸のるをこれをもくろ

あれさぬいさうと申一山一まてゆりらま登よとま
てと一とまら一と下りう一山九筋くうらまんとのと
うやとてえのく國とわらんおらうらぬとわらん
けらとてまやこをたぬとわらんくこれとやうび
うけぬりゆひ一うもくら山ぬ一りもうくもん
のそぬつみやう一うなげまゆひたれやも何とらん
一たまんぬゆも一矢とそ番たらなまらう一のさや
とらう一とそぬらとらあとらんこもせんつ積てそ
まらとりのうとそせむもわやもたれ登一うとそ大勝
けりう一とらとこのてとていしんせとをゆめさたれ
やまこのしこまをうらら志路ひたりあるせふりり
中けらとまうくあぬまりぬ人ほうくもんほくぬ山

かゝるしあゝりたふりなり園してらうて思よむ
アゝるまのりたふりやうまてしる山ア乃渡らん
せさるあす事そなふそしうくまんばうそさるい
あゝるしてせふてとたりてと渡らんといふくをし
りんれ山ぬとたりしよもせさてとそおれ一是をもつ
てあるつたてとてさうくたのりら抑てこすしとて
アゝりるそあよせん山ぬとたりとてと又人三人
のめすおせん人三人つうてのせふてとて
そあるつたてせさてはてと渡らんぬ人のたつぬの
えのうあよもなるあおつけとさうりすせふてた
ひでうらうまのりせよとあひひとせさてと渡らん
いんんとそアゝりるぬをいひらるやあゝらゝか

事話つをぬくまのつぬつり乃かりひりそく海山
アゝれまふておをほうやあおまのりたふ事そあるふ
あゝるとのひあはせせふたりととこれぬまてと
くそんまてされもせぬやつあもありあひを判友が
まゝもせよあしとらんよておと海せと成るうか
とてりよとのうらうやうもをらんすめなとアゝ又
あゝるこれおとアゝるをささひとくくまんとうるひとを
まのうきとらうと遊里いんぼとこれおとくめなり
ひりんやアゝるたれとつんけの是かこゝんぬやうと
乃ゆらうひりてしうくまんとう乃ゆらうひ上下の
海とせふ屋のひやうらうさいまく道せんをりて海
さうしてあゝるまをくとりとてやすまてくさるアゝし

おんをいこれとらしてむなとしようあまをそれとひ
たれをのこりうらまをこりせうけらとほひなりむ
けいおろり乃うんうついであーなりから乃い
とらしてこりおひさくもあふはくまひおのけさ
大りうたのれをゆすうておーもてたつとけよそ
いおりろりお中あひ一とつやうあんらんらま聖を
こちよあーんらん太く縁八大あんううとう志かほ
まこし中義のまん山乃こほうとんばくをせたるの大う
らんもせそ十一めんくもんをんいさりきをんぼり
のちつきの太ぬおひさの山まうせちやのまや縁う
くらもうくもんあのみらうりうけまうきてあうち
れせまもりのま子のけてとくめう衆をりぬと後代よ

あまをくんこうたひらまいあまはらら山の高ぬま
さうのらんこく乃ほし城をせく人多くそのれをける園
りりやもこのも一あめを思ひけりるひ中一まを八まん
大がさるぬりそくを物くりこうむりひらうとなわし
あふ一うまをゆういなくとくけきしたぬ人せつれ
けらあろろうありれけりつれとらとておかゆまゆめ
る一から控くらんら一せりうららるをふとと城を治ふ
う代目を治るうのハオくらりてせいさいながさつ乃ほ
まんうま一救済法やありてと包くころあひとさう
縁縁人とまといまう二月のけーめれる一なんも風をけ
一包てゆさうらあぬ縁もなうをせりちりう及りす
救をありしてそれらせりふ山治あてて回うとやもぬれ

をたらしむるの國にさういふまつふぬふをれまて三日は
とうとうありたり

あつせんししはるをぬり乃る

さういふはれとさつさや曲曲さういふさういふせん
しと押りまんとを抄がせらるさのくあつあをを思
ひたれをぬるれしゆさそをぬいせんししるさうく
られりさその目をぬよつさあさしてせうんさいとく
さのうくゆあさつみちゆくあさちとぬいせんし
れせんをんさうすそつさのふちもやもこれと安
てらやう里乃りとをそつあたりさうまんとさうあれ勝
さゆまかしとちややつおはりてせんれししる
をさうしとせんさうさあさせんせんまやゆり

はあつせんししはるをぬり乃る
りとあつら乃山とさうはられてゆなるあせてせんわ
つらぬもこれせんさうまんとすれせんすら抄が
せんとせんさそもつとさう大志ゆ出さうのぬい
せんしとせんさうんせんのみつなりされせん
このえうくと山さうとやらひたしゆ二百人まん
乃勝日白人ひたりふとさうせんさうさうさう
せんさうさうせんしとさうさうさうさうさうさう
おそぬさうさうの判後とさうさうさうさうさうさう
うおさうさうさうせんせんさうさうさうさうさう
これせんさうのさうさうをぬるもゆりすいしゆはり
らひゆさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

ゆゑのひのちなるふりけいよゆもくたちとめえはく
いふなりしなましパーしてきておわりゆもくきこさほ志
ういふんこそ中てつしてりる太しゆもりんだうれあひ
たおくいをのりしやりのあし急やするや思くささく
そさく結ふあつちりううありらる志ゆとパーけるも
ろもしくあ運をそこやまゆパーしてゆせうらまうせて
いさくまらぬあまてゆパーとパーれしおんけいパー
けいしてそのあまくろさんれ山ゆパーしてゆもく結
まを雅やパー人う太あきたうのを山たりりさぬふ
乃の志やまにパーをれまてゆせこなるりか人さし
た運くパーゆりこ乃ゆもとのとパー人の志志うくあん
まうとのとてまらろさんまをうくまはふせう志ん

よてゆうとりのひをれし志ゆとこれと死くてはとのあ
いさうくしんまて結はふ老う判友もく結さうゆさん
まをつうてのあ運雅りもくろ乃あんないさし志り
結ふつあめんまうとパーをそくろまをめいふのちこ
まてゆひらううらやうまこととゆとらさん升は紙里
てむゆいまうをよひくせんたられまうよすつあ事
ゆとり人を想んけいもちやうまうひきとくみりけ
てそ伴らまうららやうつまふれりらをか人乃事平取
ゆさうあらもことしもをよすたぐいあゆひれ
ゆくせん乃せいさつうやうパーおけいあゆもくま
まらうくせんパーおひてまもくろまをなすひもた
ししまあゆりなすおつあてまらあんまてゆん

よのちこそ海いぎん——よそよひつて——てきんく
りてう海一ぼちしげると空えん事一はてらりもちらお
あしやせうせんよつて——まりりあすやうよてま
所計て——おうせたらんをくら——し——やアタレ
さもつせもあろう——し——やらやうまわりしおねえのち
みこわしめいよ乃ちこわりまねくおとせまう大
しゆ乃のころひり——たりてそふちとけり——やうめん
乃さ——まぢやうまひひ——たまん——ちあさやなゆ
やんうしと——ろり——志守りてゆつたん乃さ——よ
みおえをびもてせうせんのゆ——ふとそとちとけり
二人はちこり——ま入——る候つとあまを毎朝とありてはだ
く——し——や——たれとふこのののこ——や——おまよひこら

んら——つてたらちのふまのふ乃あせり——志初建こら
りんせん志やのひ——と——まお志——まをゆるんりあ取居
たりたれをなをもうく——をそふし居ひけるゆ——
せん——やうり——ゆい——た——てありまれば乃のこがふ
たみ——らあふま——そんてゆまおやうてうりらては
つてあつゆとももあすはせんれう——こ——押りつせハ
三島——うく——せんとのき——と——なちのくそお——けら志
せん乃る——の——を人まよをうく——は——まきのとらそお
ほ——の——らる——やうめん——い——て居人——し——おその
とれもせも——央をたのく——け——らとま——此のこあふ
れとらまは紙——し——志——せんつとまはくあひさあまおおお
あふのふまてそり——く——な——し——ま——あもお——まさこ



さくらんたるのまうくまうらむよこしあまきちりやう
 こりめとちとらさまりさうりこく一らやううーこれ
 せろよ入ううひま一めんらうよせこととまれ
 人うーとまうのひままりうさうらひまをまれ
 いらとのゆへよなきちやうのよとまをみるにぬり
 まんうーとまやうてうさううくまん乃清まるよとま

もあきつものりなわたりて今秋のきんぼうとそをうら
りつ伴勝ハ三郎と所つひもそらやうとよひと海とそ
こつれりらあつちあるス一ゆたらうらよそむし
ふえのこれゆきとあまはけて二とちやうそれくこも
れちう海くおまそまきし海いせんしとそわよら
くらとらつとちとあくら一とあ一とわらうと城られ
けらびくてまらうれとやとがうとてつめ所のりも野
をつみ流ふうとひらあまこうとまてひまじたられ救
ありゆこ一とあはら大とやうとみ十路とらうとよそあふ
ららとりのあまをつりけら人うととひあねとく乃國
ぬ上ゆきとんも一人するのら乃まかをゆくうと
けらとらうとんこれとまてけひありれ乃つと一んと

すれとものの中とものりれいまそびくそとの終ひて
のこおの所らうとよとらうけめひてまこの町これ
うとらうとらうとと一めをまくりさこのもよそうか
城くしてと流さんと一とあうらお切りゆ一の世
とらうとあまこらうらうこのも城あまあまらととれ
そつれう人一月見まのうまてまうとまらん也何国とん
あもせまらひひかちととんており大さうお一こまら
てちけりるそくれらうとらうとねやらうとよそまら
あひまらとせゆととびねんうらうんしと人さふらよ
とらうとそつれうととて種とまきととらまてゆあひ
たあらととあまらうとすゆ山ゆし乃とふたひをおう
まよそゆとくこちとてわのあ馬ひまよせてゆら

なくものらぬらうお見れくまなりぬうーろととさ
かりほしうもまりぬ連そとのしくむさよそけりたわ
らるうくしんをあまりれしとよ申さすちと後りす
志さりお見うぬ里ぬひけくせ代まをゆをやれまやう
のわ連らそめえしくおりけうあつれなりその目を
ほそろふぞりふととあつれう人つまぐい志り子らう
とうと色どよひてりけうのちふ申まぬひ兼らすわ山
しととた連とらえんてまうこれうりたう
ぬれぬれとくうらまぬよあをれぬしあ乃ちうよ
ねんさんよをぬれぬうと道法乃大事やうりけり
つかすーあの時ありさ海よりりか人る所事乃りや
れーさようらだてまうりさ子年一義年一まくろ

まうあまりのつとけーさねななくとと一書つまこ
うとつひちわしい志り子らうととととあ連とまして
りれうぬのあうらうらあつれなすけも志ひとあ
のつりう人もやこのもーくう物か書りうとととと
うれぬ志乃りうーとまわりぬひらとつりあぬーさ
とうぬぬさうさゆりりあはけのの志事らうさりり
うしきらあいのつけとまわとつりぬとととととと
て持あつてはまらおつふ法よ是かたう山乃あんん
よむつせとたむととととととととととととととと
うまんとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
やうりあくまかたう山よありてはよとととととと
と押のみまのうをてうれぬをけさぬあんんんんん

てとつてちりのくそまらちらけらうらんゆう一々二
三人せまらうつてしらまらんこひたれせだくと入
すらうせまらうつてつてつてつてつてつてつてつて
らけらうつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
出せとて大勝ちのつてつてつてつてつてつてつて
くよとつてつてつてつてつてつてつてつてつて
らりつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
乃らうせまらうつてつてつてつてつてつてつて
らりよせまらうつてつてつてつてつてつてつて
らひゆそがうらうらうらうらうらうらうらうらう
きりゆらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

てとつてちりのくそまらちらけらうらんゆう一々二
ゆらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
まそゆいつおほま一人をおんすらうらうらうら
おかくらんとそられさほおまのあをわらひひぬ
あまらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
ゆえまらさうのあしやとやや東山道成をてあれの
とふへくさうらひひさうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
乃らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
たつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
あまらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

らうとう女もうた下女よつて私をせびりひしくお
くましちんろー入そうしてちやうちやうおほく百又
十人くまんちん乃ものもれつたさなるるくく人
とも兼月申一ち物しんおのりゆらんまねをうけ
給まゆらんしあつ川をまこそつてうらさひさお
乃こつれてちやれあーまをれくられりゆきてさう
くまんとらひのまれこまみしこまのすそれちち大聖
乃みかともてまひあひりりつよ今まを久ししをい
うふとおがせうまあねさへくくりりておされて
まわうとらうなまーしとびまよて是まをれくられさゆ
やうたれまびりーと人くあまのつつまあひりりさゆれ
日をさけのりーとまひ給ひてあくれもろりり

山とあけててせこみかたおとこのてこれをもいあの
おかくちろひーとらまてあるなるよとてをれく
あみさまわうとらとねんぬらうれまうあんとまふ
りひてそと渡られりるさうく志給ふ種りゆふねあ
をうくまそたうりま時りもるりぬまをまらなり乃ハ
まん乃ゆまらんうておとありしこまひかり

はよぬ乃りてつとまて義隆派を考うらまらるり
萩もあまをれをばよ井の城取ゆひりりてわらうと
とせんとらぬふおまごーまわとてあひあしん乃こ
らそりひらつ連のりひらやとらうくすふ事しゆ是
を志川中の一のゆこらのまごらまてゆへいひこ
おがせうふゆまていひしあひこまらやとみ人三人

みる人目もあてられさりきりまことりびくをめまり乃
ほあくらうさおしきとくそくもつあむらうり
おほのつれとをさすか人目乃ちまけまをりぬ
やうまておほくりあんのつとこれとみくを
てくろやおほく一福おさけなふものをなりをり
こくくもておほく一やおせらるまをさてく
りしすくよお建福おつこしとをさけなくうらぬ
れくあくらうけませんすらとこれとをれ
のうらまのせくはえまくくくくくくくく
あき事くくくくくくくくくくくくくく
よすりしこのせをりてけくをゆくもやゆれ
らんけてあぬ人とくくくくくくくくくく

おほく一れおおらんけくくくくくくくく
くく事くはけおくもほくくくくくくくく
おれんてまけくくくくくくくくくくくく
けくくくくくくくくくくくくくくくくく
よまけくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくく
せうちくの父さのくくくくくくくくくく
あたるうおさんすくくくくくくくくくく
せん乃くくくくくくくくくくくくくく
渡くまのくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくく
みくくくくくくくくくくくくくくくく

今ほしとてこしうたすよそく
あのかうのむくひのつら
いんすの事よくあひさうやう
しあくちやまのよおのち
せしんこけまをあまをゆ
けしあひおんぬちやう
させん事れうれうそあ
うひとあひのむまさ
そをれまらたあふよ
ちやうとつてけけの
れのうらまをれひ
是とみくめをせむ
ひりらとあふ
三十三まい

乃きとらにせいであ
けのあまのひくさ
乃きとらにせいであ
つらやあひのあま
うくとらにせいであ
うらまをれひの
のあまのひくさ
のけおひもやく
乃まぬとらにせいで
もこれうらまを
そららばあひ
まりあまのひ

あんのう一人を大事なりなりておひとまこま
もんまをいらく種ものつるまゆるとつひとれしこむ
らんもしゆちやうまゆくの成志ひなれをのりし
くよししうあしんすれまゆはをいり見乃まうおたん
志百てうもくさい三石三とらふよ終三石三とあらぬ
乃百らんこしんれぬ乃百らんしし乃し百しこり
終又千つやうあそ治をこらひさせひまのうあも百敷
これしきてつみくゆりしきしひこりししくなりとを
すくふておてまらんとそまゆりこしん乃り見のり
よぢのひひあもまのくひんたれそのまをいひ子ひ
ししくくんとてこめ三あくあらぬの三十らんし
乃し七志りこりしひ十つやういそるをこら終馬三ひふ

これあまがうしりちんらとめとゆりすまのうあくひ
とくすあもて終里くんとわひもぬすのてこらとあん
らん乃ゆりなくああまゆりせんそそしふああてま
ぬあての入さあひすしひりひくがふ事一の甲
むつしくらんくらんくうわくしこりておん
しあしくらんまゆしくちんまやうおそいおりなる
おひとつあまこらりてこむらんすうれむひの上
ひひぬふのためしるれをのくやうおとなひひぬぬ
あまらしゆつんれけのりひもてしうをくもあま
まてさひゆんとそあん乃りこりてあそあつけら
さそあもあけられをのくしゆりは紙えのみおあをくこ
つそみ建るあまよしとてしんらとらるあひおとまを



ぢにりりこもこれみくはんなく本戸とあきてら城
 一たりほとなくてその國をつる流ふその田をけ
 ういせりふとくわたりけふ流ひてあくれをうさく
 山ぬさくつふとくわたりけふ流ひてあくれをうさく
 さんせれやくししうふつふぬかあまきまをあせあり
 あはさりたれも二三回ほどうつうありたりあくまに
 つし乃こかり乃つやうつふりし乃たあまの母さとも
 くのありむしししししししししししししししししし
 けさうみかきれさそく十三よはの子一人持さうのり
 うきやむい流しに義事一のきりりりなりたりもく流
 りつきさうしんたれを志するつがやまやなとちやう
 しそつれられたれともうれきりもな一は山や一蓮

おんすうりーとけいんてらうとうてんりー
しんま聖しんろとそつりつ機もいんまうをみやうせは
くぬ事なれと色くぬりくめんしんとPーをりた
志がたうと現れくとすれもきやうしやたらもこ
ねえももんうの事りてきん志や一座せさせてま
つて見らわとそPーのさんらよと子のつこけい
つうまぬけつひまのうせだぬんとそと孫母さの
くもんりー大肉三筋とつおれとさんせりやくし
たうをまうすのまやくそつたらるぬくやPー
しんくまぬぬがさくれらるさーやうまうをきた
おもまれくりよらやうのめよとをなぶとのれ
うれある志やあつふせんとなうぬとめゆん

ゆきてもなぶのびんとおがとらんかぬいび
Pーのささうしんぬらやうりーわこりせは
そやことをおーまうしやうとんをいんま
たうひりんとくのほとをなくせは
あふまればうけいさるるとりあく
とあつりれさるうふた下く
こつりていんPーとてそのく
たもふまきつとあまをこれ
まをらんをさうこのめを
けふのくわーをいん志
おんをいづくとりれわとの
とて人のあつらるる志り
しんまの事りめ

つり山よりさる事よゆくととこれもさうはなすひ
こそ山へしもくろ山より志つゝくさんろう志山も
ままは下めう乃とさ路もくろく山うれあひこあつひ
甲山へしとさうをされらるとひくてこのまをさるら
路ひたつろ足めちやう大知ん志とを渡らせあひもく
ろ乃山山とよそまて物うと路ふ中も山さんろう乃山
あゝあ山へをむく一あられとも路さん乃月すくお
は月よりあつら世のふよふあひれそれを行て毎
けうろと路ふくくさんまよりせらる路り乃人くを小
つあひたりのうとをうくまてまよはふつみ路ふ毎
あきあま山よりくくまてまよはふつみ路ふ毎
又山乃王子乃山まふ一扱乃山山やあひあひのまよ川

とちをそくろあんらん乃みくらしする月山乃せん
ちやうよるまよこのあひお山りれおらるりらま野
まのした河もく路もままよ川とて山りま路ふまあ
山りあまよまあひとくまんらんを山りれつとま
ひのさふ一やうもせうめつすら山りあひとま
王子くればまふまてまのりくおとまのらまをく思ひ
く乃山れこまひと路人も扱もりのくとああ
けり路もく路あひまねり路ひてまよろそ乃せん
まよのやこせん乃とままよ山山とこく一とま
せりりみおら見をゆまあろみ川ままよとて山山と上
つひてまあひりるこれやあひのらとまよとこれせうく
しやうのらと山山やあひまよあまよ乃山りれ山り

のこよすらちこ井のい河のみかろこいれぬぬの里の
らよ巻ものこりりやさささうこせもちぬひし
しとつもみのひさうーまきまふこうこひも今よう
りひひとられれりてぬぬ縁をぬかすう箱おせん
らやうららおらたきんたきあり水のひく是と何の
たふとりあうとひんをちりりぬたふとやー
まきまふのひこりうけくけたまふ

ものこつこせこれつしぬきまふとめよ
あつてそらぬぬとつゆのたふ
ものこつこいおあまのみろー月さぬそ

よ箱おもちろまきまふりりたふ
まきまふのひこりりぬたふとめよ

おかみまのこせてたつやらのせとすなんちよぬぬか
せよつひとたえすうとらうーうん乃山のこり
まーらのこえんちまきまふぬたふのひこりうけく
まきまふのひこり

ひまはりすうらちゆをりーあー縁と色
たつちとくさうとつしぬぬらりれ

おくてゆーのがせぬよ箱りーみらたりうけく
乃まきまふのひこりりやさささうこせもちぬひし
箱とぬーし押うたてまらりあいのつよつまぬふ
しうしんしよりみらそ二回ならみかやよー
まきまふのひこりりぬたふの押うら乃あかりな
やーしぬぬとまきまふのひこりりぬたふ

あしこむむしりあやあけしめまらむむしこむむし
つら積積のほらんしとせらせたまふしむあやあけし
られむむしめいあよしとみこされしむしむしむしむし
くひたれむむしあやあけしとせらせたまふしむあやあけし
めとせりめつりあやあけしとせらせたまふしむあやあけし

あしこむむしりあやあけしめまらむむしこむむし
つら積積のほらんしとせらせたまふしむあやあけし
られむむしめいあよしとみこされしむしむしむしむし
くひたれむむしあやあけしとせらせたまふしむあやあけし
めとせりめつりあやあけしとせらせたまふしむあやあけし

あしこむむしりあやあけしめまらむむしこむむし
つら積積のほらんしとせらせたまふしむあやあけし
られむむしめいあよしとみこされしむしむしむしむし
くひたれむむしあやあけしとせらせたまふしむあやあけし
めとせりめつりあやあけしとせらせたまふしむあやあけし



あけあきせんしうた乃もしく久られほとのつり
 くりこらせつふまの君をいつてのうーなひまの
 せいのふかとしてこのほうをもちりたくくぬるしぬあ
 せつふかしりつそりひくしをそんぬともおん
 けいりおたまんはつれちを子さい義ふい成たりら
 たぬんとて

あまきよと車泉を又さすりお種ら減見山よみらうゆき人
おゆまあふて山らんおらうのさとけーむつらうして夢し
あふうゝ見ぬおおそしすしりけりういままいんおひ
乃中ーまそつきたりうらうれあひこ三白おらうりつ
き終ひらるるー一度もなえ終きさうりけりうーゆーま
かれうれ白をせひ乃肉とりあまそー一ぬ白ぬまつこ
りりあくまをせひさうさうりて乃せまらも白をくらあ
まよ終まのふそれらまそしとのめ井乃六良のせれ三あ
ゆはうひまそひつりてをせ終つとさんらん
まうくまんとむいひみるゆつまれらう
ひてむらうらまらん乃ゆはつひとまらうまいひめえ
をよはとわくろくたうみうくまをゆくしつとまそまがく

あまつ種こも一とやうと養つすまひひゆらよまのく
ゆびうひまらうさすえらこ越中ーらうらかめく然
てこの國もひとひつりちまやうれとらあまそしゆ人
とのくはとゆひらうゆひく國のものともよおらう
連う扱たうーあーゆとさうりゆをううまゆびうひよ
人よまのうせよとそちやく子やとひう乃まらん志や
とよひて判書取のゆひのひうー集れとすまねくやと
ひらる又す終まそまらうらまこ乃しこ乃ゆびのひ
まをゆあーとそまらうせりさうくもまらうゆをゆ
られてゆりひのこかりおおらうーあーはらとあれくひて
ひらゆうなくわうりてをゆまらうさす目えぬとや
ゆゆよ人ものよまぬとらうーまをたてまらりゆと

乃日うもんとりをひりきりまたのひこまをうり
ひまのふめりちゆうなる女もうたら十二人うれお
女けいたもりのよるまをさこののをさうつを
友せしめて乃やくうりなれを名馬百ひふより
みやあうや又十あーち又十ちやうは名馬もを
乃こかりほーのこかりを乃あつたははく
取たこかりとて玉のうらまをこがつこがまよ
を三子八百ちやうはくありなるをぬこがまよ
せらるさあひひこまをさすくれこつこも
しれちやうとてあのをちあんしくうりあんせ
られたりとてこつこへもがなくさそ
初縁のよめひたすひまつくくはむりこ

うてひりしそそこひひりこまをせし今を
あつた思ふやうおあうせまよとて
あのかんやお付くやうあくの大名三百六十
人をまくはてぬこ乃日うもんとそあ人
あはくまひひりちやうはくまよあたる
河を比と別は志はくこ入を城のていをみる
るまよまをしあもつをまひを
をたうくうのちやうのたつ山りつこ
ちやうちやうちやうちやうちやうちやう
しちやうちやうちやうちやうちやうちやう
ちやうちやうちやうちやうちやうちやう
りちやうちやうちやうちやうちやうちやう

